

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程臨床検査科)

授業科目名	臨地実習	授業時数又は単位数	8 単位
実施期間	平成 30 年 5 月 14 日～8 月 31 日 (16 週間)		
実習・演習等の目的及び概要	<p>学校で学んだ検査技術の基礎・基本の理論と実践が実際の業務として、どのように行われているのか、また、不特定多数の患者様に、どのように対応しているのかを体験実習する。</p> <p>卒業後の進路を決めるためにも、病院と医療社会の概要を理解し、医療人となるための研修を確実に自分のものにするよう努力する。</p> <p>実際に病院検査について指導者のアドバイスをいただきながら、病院には多くの業種の人たちが連携して働いていることについて見学実習し、説明を受け、検査室との関係や役割について学習するとともに、医療チームの一員としての倫理観を養う。</p>		
企業等との連携の基本方針	<p>地域に密着した大規模な病院で検査施設が充実している病院を選定し、厚生労働省の認可を受けている。</p> <p>これらの病院施設内で実習することにより、患者様との触れあうことで医療人としての自覚を養いながら、実際の業務を習得すること、また実際に現場で働いている先輩臨床検査技師の姿を見て将来像を明確にし、働く意欲の向上を図れることがあげられる。また、規模の大きな施設での実習により、他職種ともかかわることでチーム医療についても学べる。</p>		
企業等との連携内容	<p>学内で習得した基本的な知識や技術を、実際の業務でどのように活かされているかを認識する。臨床検査を理解するのみではなく、その業務ができるようになる第 1 歩を踏み出すための能力と各自の眼で直接、組織としての病院の多様な業務を見学することにより、患者様への対応や医療職のチームワークなどを学習し、能力を獲得する。</p>		
学修成果の評価方法	<p>理解度、技術の基礎技術・正確度・敏捷性など、態度の出席状況・協調性・責任感・持続性・積極性などによる総合評価。</p> <p>「優れている」「やや優れている」「普通」「劣っている」の 4 段階評価を実習科目ごとに行う。</p>		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
約 2 週間	臨床検査総論 尿検体をはじめとして一般的な病態を把握するための検査を学ぶ。	別表 1 検査室	
約 2 週間	病理組織細胞学 病理組織標本作製をはじめ組織染色標本を学び、解剖を通し人体の構造を学ぶ。	別表 1 検査室	
約 2 週間	臨床生理学 循環機能検査、呼吸機能検査をはじめとして患者様と直接関わる業務を学ぶ。	別表 1 検査室	
約 2 週間	臨床化学 採血にて得られる検体より病態を把握し、診断の補助的役割を学ぶ。	別表 1 検査室	
約 2 週間	臨床血液学 血液成分の組成、形態を見極める技術を駆使し、診断の補助的役割を学ぶ。	別表 1 検査室	
約 2 週間	臨床微生物学 各種検体の採取法、保存法をはじめ病原微生物の同定方法などを学ぶ。	別表 1 検査室	
約 2 週間	臨床免疫学 各種感染症、アレルギー検査や輸血・移植免疫の検査・機序を学ぶ。	別表 1 検査室	
連携する企業等	別表 1 参照		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目 (実施要項の要件を満たすものに限り) 毎に作成すること。